岩盤ボーリング柱状図

調　査　名　国道182号外道路災害復旧事業に伴う業務委託（一般国道182号）

事業・工事名

調査目的及び調査対象　道路　地すべり・斜面崩壊

ボーリング名	Bor.No.2-1	**調査位置**	広島県神石郡神石高原町地内	**北緯**	34°46’12.4400″
発注機関	広島県東部建設事務所	**調査期間**	平成30年 9月18日～平成30年 9月21日	**東経**	133°16’55.0500″
調査業者名		**主任技師**		**現場代理人** / **コア鑑定者** / **ボーリング責任者**	
孔口標高	425.15m	**角度**	180° 上 下 0° 90°	**方向**	北 0° 270° 西 90° 東 180° 南
総掘進長	21.00m	**地盤勾配**	水平 0° 鉛直 90°	**使用機種**	試錐機：東邦地下工機D-0／エンジン：ヤンマーディゼルNFD-13／ポンプ：東邦地下工機BG-3

標高 (m)	深度 (m)	工学的地質区分名	色調	風化の程度	変質の程度	硬軟	コア形状	割れ目の状態	岩級区分
424.95	0.20	表土	褐						
422.45	2.70	礫混り砂	赤褐～暗褐						
420.65	4.50	泥岩	赤褐	w5	h1	E	Ⅳ～Ⅴ	d	
419.95	5.20	泥岩	赤褐	w5	h1	E	Ⅳ～Ⅴ	d	DL
418.15	7.00	泥岩	暗褐	w5	h1	E	Ⅴ	d	DL
416.35	8.80	泥岩	明褐	w5	h1	E	Ⅵ	c	DL
414.15	11.00	泥岩	赤褐～褐灰	w5	h1	E	Ⅵ	d	DL
412.85	12.30	泥岩	赤褐～褐灰	w5	h1	E	Ⅴ	d	DL
410.75	14.40	泥岩	赤褐～褐灰	w4	h1	D	Ⅳ	d	DL
410.35	14.80	泥岩	赤褐～褐灰	w4	h1	D	Ⅳ	c	DH
409.85	15.30	泥岩	赤褐～褐灰	w4	h1	E	Ⅴ	d	DL
409.35	15.80	泥岩	赤褐～褐灰	w4	h1	D	Ⅳ	c	DH
408.85	16.30	泥岩	赤褐～褐灰	w4	h1	E	Ⅵ	d	DM
408.35	16.80	泥岩	赤褐～褐灰	w4	h1	D	Ⅳ	c	DH
407.15	18.00	泥岩	赤褐～褐灰	w4	h1	E	Ⅵ	d	DL
406.55	18.60	泥岩	赤褐～褐灰	w4	h1	C	Ⅳ	c	DH
406.15	19.00	泥岩	赤褐～褐灰	w4	h1	E	Ⅵ	d	DL
405.55	19.60	泥岩	赤褐～褐灰	w4	h1	D	Ⅳ	c	DH
404.55	20.60	泥岩	赤褐～褐灰	w4	h1	E	Ⅶ	d	DM
404.15	21.00	泥岩	赤褐～褐灰	w4	h1	C	Ⅳ	c	DH

コア採取率（%）／最大コア長 cm／RQD [%]（0 20 40 60 80）

深度 (m)	最大コア長[RQD](コア採取率)
2～3	0[0](100)
3～4	0[0](100)
4～5	0[0](100)
5～6	0[0](100)
6～7	0[0](100)
7～8	0[0](100)
8～9	0[0](100)
9～10	0[0](100)
10～11	0[0](100)
11～12	5[0](100)
12～13	0[0](100)
13～14	0[0](100)
14～15	0[0](100)
15～16	6[0](100)
16～17	6[0](100)
17～18	0[0](100)
18～19	5[0](100)
19～20	10[10](100)
20～21	0[0](100)

記事

- 砂質土からなる。植物片が混る。
- φ2～50mm位の角礫が40%位混る。
- マトリックスは、GL-4.5m付近まではシルト質砂。
- GL-0.7m付近までは、植物片が混る。
- GL-3.5m付近に厚さ2cm位の粘土層が挟まる。
- 破砕度区分はCL。
- GL-4.5～5.2m付近は、砂礫状コアを呈する。
- GL-4.7～4.9m付近は短柱状をなすが軟質である。
- GL-5.2～7.0m付近は、泥岩片が主体となる。細粒分は20～30%位混じる。
- GL-7.0～8.8m付近は礫混り砂状を呈する。
- GL-7.8～8.0m付近に礫混り粘土層が挟まる。破砕度区分はCr4.
- GL-8.7～8.8m付近に礫混り粘土層が挟まる。破砕度区分はCr4.
- 全体的に風化している。一部、砂岩が挟まる。
- GL-8.8～12.3m付近は強風化しており、砂礫状を呈する。
- 原岩組織は残っていない。
- GL-12.3～18.0m付近は、風化しており、短柱状～礫状となる。
- 強い指圧にて、ボロボロに砕ける。水平方向の葉理面あり。
- GL-15.8～16.3m付近とGL-17.3～18.0m付近は、砂礫状を呈する。
- GL-18.0m以深、やや硬質となる。
- コアは、柱状～短柱状が主体となるが、所々礫状となる。
- 水平方向の葉理面あり。
- 水平方向と鉛直方向の亀裂が多い。

孔内水位／測定月日：9/19 4.10

標準貫入試験：（深度－N値図 0 10 20 30 40 50 60／N値／深度／打撃ごとの貫入量／50回の貫入量／自沈時の貫入量）記入なし

原位置試験・室内試験：記入なし

削孔状況

深度 (m)	削孔月日	コアチューブ・ビット	給圧 (MPa)	回転数 (rpm)	送水圧 (MPa)	削孔水・送水量 (L/min)	排水量 (L/min)
0～4.5		S/MC					
4.5～11.0	9/18 (5.2m)	S/MC	0.0	0	0.0	W1/0.0	0.0
11.0～11.5	9/19 (11.0m)	ダブル/MC	100	120	2.0	W3/10.0	2.0
11.5～12.0		ダブル/MC	0.0	0	0.0	W1	0.0
12.0～12.5		ダブル/MC	100	120	2.0	0.0	2.0
12.5～13.0		ダブル/MC	0.0	0	0.0	W3/10.0	0.0
13.0～14.0		ダブル/MC	100	120	2.0	W1/0.0	1.0
14.0～14.5		ダブル/MC	0.0	0	0.0	W3/10.0	0.0
14.5～15.0		ダブル/MC	100	120		W1/0.0	
15.0～18.0		ダブル/MC	100～200	0 120 0	2.0	W3/100.0	1.0
18.0～18.5		ダブル/MC	0.0	0	0.0	W1/0.0	0.0
18.5～21.0	9/20 (19.0m)、9/21 (21.0m)	ダブル/MC	100～200	0 120 0	2.0	W3/10.0	1.0

孔径・孔壁保護：66／ケーシング